

Course number		U-LAS61 10005 LJ28						
Course title (and course title in English)	現代技術社会論 Sociology of Modern Technology			Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Energy Science Professor,ISHIHARA KEIICHI Graduate School of Energy Science Professor,TEZUKA TETSUO Graduate School of Energy Science Professor,KAWAMOTO HARUO Graduate School of Energy Science Professor,SHIMODA HIROSHI Institute for Integrated Radiation and Nuclear Science Professor,UNESAKI HIRONOBU Graduate School of Energy Science Professor,KUROSAKI KEN Graduate School of Human and Environmental Studies Professor,YOSHIDA JIYUN Graduate School of Energy Science Associate Professor,OKUMURA HIDEYUKI Graduate School of Energy Science Professor,MCLELLAN , Benjamin Graduate School of Energy Science Associate Professor,OGATA SEIICHI Graduate School of Energy Science Associate Professor,ISHII HIROTAKE Graduate School of Energy Science Professor,TAKAYUKI KAMEDA Institute for Integrated Radiation and Nuclear Science Associate Professor,UEBAYASHI HIROTOSHI Graduate School of Engineering Senior Lecturer,YAMAMOTO KOUHEI Graduate School of Energy Science Associate Professor,MINAMI EIJI Graduate School of Energy Science Associate Professor,OGAWA TAKAYA			
Group	Interdisciplinary Sciences			Field(Classification)	Environmental Sciences			
Language of instruction	Japanese and English			Old group	Group B		Number of credits	2
Number of weekly time blocks	1	Class style	Lecture (Face-to-face course)			Year/semesters	2024・Second semester	
Days and periods	Thu.5		Target year	All students		Eligible students	For all majors	
[Overview and purpose of the course]								
近い将来、エネルギー・資源の枯渇、ごみや汚染物質の排出などが突然顕在化して、われわれの社会に大きな打撃を与えることになるかもしれない。また、地震などの自然災害や原子力災害などは、一度起これば壊滅的な被害を与える。さらに、社会コミュニティの対立や南北問題など、地域からグローバルな国際社会に至るまで多くの問題を抱えている。本講義では、これらの問題の所在を明らかにしてその本質を探るとともに、解決の糸口を探るべく、それぞれの分野の最前線で活躍している担当教員らが平易な解説で講義する。								
[Course objectives]								
週ごとに取り上げられるエネルギー・環境問題を中心とした各テーマについて、それぞれ現代社会と技術の関わりを理解する。また、広範なテーマのレポート課題に取り組むことによって、現代社会と技術の関わりを幅広い視野で分析・考察する力を修得する。								
[Course schedule and contents])								
第1回～第14回 ガイダンス及び講義 ・ガイダンス 初回講義にて、講義内容およびスケジュール等について説明する。概ね下記の内容で講義をすすめるが、順序などは入れ替わる場合がある。正式な講義スケジュールはこのガイダンスにて連絡する								
Continue to 現代技術社会論(2)								

る。但し*印のついた3つの講義は年度によってどれか1つが実施される。

第1部 エネルギー・環境に関する問題

・地球上での物質循環とバイオマス（河本）

光合成から物質変換、分解・無機化に至るまでの地球上での物質循環の概略、生態系の種類による特徴などについて論述し、バイオマスのエネルギーおよびケミカル源としてのポテンシャル、地球環境に与える影響等について議論を進める。

・原子力エネルギーの現状と将来（宇根崎）

本講では、まず原子力エネルギーの原理と特徴を述べ、それらが各国の原子力エネルギー利用戦略、政策とどのように関連するかを述べた後に、原子力エネルギーの現状と将来について概説することにより、今後のエネルギー利用における原子力エネルギーの位置づけについて解説する。

・情報化・エネルギーとその課題（下田）

近年、急速に発展する情報技術により社会構造が大きく変化してきている。講義では、このような変革がエネルギーや環境問題に与える影響や恩恵について論じ、さらに円滑な社会構造変革のためには、どのような課題があるかについて説明する。

・エネルギーシステム学入門（手塚）

エネルギーと環境の問題においては、人間およびその集団の意思決定が重要な役割を果たす。そしてその意思決定は、一人一人が周囲から多様な影響を受けながらも最終的には自分の判断で決定するという、自律分散システムを形成する。もし現状のエネルギー需給の状態に満足できないとするならば、人間を取り巻く物理的、社会的環境を変える必要が生じる。本講では、上記のシステム学の視点から、人間社会におけるエネルギー消費について一緒に考えてみたい。

・エネルギー利用と大気環境（亀田）

わが国における各種エネルギー需給構造の変遷に伴う大気環境問題の推移について概観し、エネルギー利用と密接に関連した地域規模の大気環境問題である酸性ガスや粒子状物質による大気汚染の現況と地球規模の大気環境問題である気候変動（地球温暖化）のメカニズム、影響や国際的取り組みについて講述する。

・ゴミから現代社会を考える（石原）

日本におけるマテリアルフローを示しながら、資源有効利用を促進するための制度、現状について講述した後、循環型社会構築に関する技術的、社会的問題点を考え、その解決について議論を行う。

・The future of non-renewable resources for energy technologies（McLellan）

Energy technologies use materials made from non-renewable resources for bulk infrastructure and functional properties. Being non-renewable, these materials are limited. This class discusses the details and interconnectedness of such resources with the energy system.

・再生可能エネルギーの現状と課題（尾形）

講義では、再生可能エネルギーの現状について、各種の統計情報や海外諸国の導入事例を示しながら解説し、技術的、社会的課題について解説する。さらに再生可能エネルギーが社会経済システムに与える影響や可能性を学際的な視点で考えてみたい。

・環境アセスメントの基礎（山本）*

人々の生活を豊かにするために行われる開発や施設の設置・改良などの事業を行うにあたり、その事業による環境への影響を事前に予測・評価を行うとともに、影響を可能な限り低減するための対策について検討するための一連の手続きが環境アセスメントである。本講義ではこの仕組みについて概説するとともに、大気環境を中心に実例の紹介や課題についても触れる。

・電気自動車と燃料電池自動車の技術開発（小川）*

近年、電気自動車や燃料電池自動車が普及し始めている。これらの技術発展は会社側の思惑が多く絡んでいる。技術的な側面から思惑について考察し、将来的に用いられるだろう再生可能エネルギー由来の燃料についても説明する。

第2部 リスクに関する問題

・地震動予測のための地下構造の探査技術（上林）

来るべき大地震による揺れの（強震動）予測を高精度で行うには、震源と地盤構造のモデル化の精度が特に重要となる。過去の地震被害へ震源と地盤構造がどのように影響したかを紹介すると共に、地盤構造のモデル化に必要な各種探査手法の特徴について述べる。

・原子力と材料（黒崎）

原子炉では様々な材料が使われている。量子エネルギーを生み出す核燃料や、核燃料を環境から隔離する核燃料被覆管などが、その代表的なものである。本講義では、材料の特性と応用の間の結びつきに着目し、代表的な原子力材料がそこで用いられている必然性を議論する。

・バイオ燃料と品質規格（南）*

新しい技術が社会に普及する過程では安全性、信頼性、環境性などの観点から公的規格や規制が必要になる場合がある。本講義では、バイオ燃料を例として取り上げ、規格の重要性や制定までの社会的仕組みを述べる。

第3部 社会に関する問題

・技術と豊かさ（奥村）

人や人間社会に真に必要な技術とは何か、また我々に何が出来るか。現代技術社会に暮らす我々の大量消費型生活を「豊かさ」「地球上に生きる人」といった視点を入れて見つめ直し、そういった技術を持たない国や人々との比較において人間の価値観・普遍性、お金の概念などをエネルギー

・環境問題の観点を含めて考察する。

・情報技術と親密圏／公共圏の再編成（吉田）

情報技術の浸透にともなう社会空間の再編性の様相について、「親密圏」（少数の人びとのあいだで、互いの生への配慮・関心によって成立する空間）と「公共圏」（多くの人びとのあいだで、さまざまな問題が共有されコミュニケーションがおこなわれる空間）、および両者の関係の変容を中心に、社会的に考察する。

・インターネットと社会（石井）

インターネットは今や私たちの生活に無くてはならないものとなっている。本講義では、インターネットの発展の歴史を概観すると共に、インターネットが社会にもたらした恩恵と弊害について解説し、今後のインターネットの課題と可能性について考える。

第15回 フィードバック

フィードバック方法は別途連絡します。

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

- ・各教員が提示するレポート課題及び平常点（授業参加への積極性等）により成績を評価する。（レポート点は80点満点、平常点は20点満点、合計100点満点とする）
- ・レポート課題は、現代社会と技術の関わりについて深い理解と考察が認められるものに高い点を与える。

現代技術社会論(4)

[Textbooks]

エネルギー科学研究科、エネルギー社会・環境科学専攻編 『エネルギー・環境・社会 ” 現代技術社会論 ” [第 2 版]』 (丸善株式会社) ISBN:4621082416

[References, etc.]

(References, etc.)

Introduced during class

(Related URL)

<http://www.energy.kyoto-u.ac.jp/>

[Study outside of class (preparation and review)]

予め指定の教科書を読むことを推奨する。

[Other information (office hours, etc.)]

授業中に判らないことがあれば、積極的な質問を期待する。